

ホテル丸治

1700年頃創業

今年6月、宇都宮ワシントンホテル跡に新たな「ホテル・ザ・セントレ宇都宮」をオープンさせて話題となったホテル丸治。今回は、会長、社長、専務の3代に同席していただき、事業継承の秘訣を伺いました。

事業の発展は地域とともに、人とともに

ホテル丸治の創業は約300年前。伝馬町で呉服店を営んでいた本家が「屋敷を跡本陣として使わせてほしい」と頼まれ、大名を泊めたことから旅館として知られるようになり、二代目丸屋治兵衛が現在の地に分家。以来「丸治」は代々旅館業を営んできました。「おそろく、私が治兵衛から数えて13代目になると思います。宇都宮空襲のときに記録も焼けてしまい、正確なところはわからないんです。すべてを失い焼け野原からの出発でしたから、私が初代と言ってもいいのかもしれない」と笑う会長の福田治さん。創業年についても「菩提寺の記録に宝暦2年(1952)に二代目が亡くなった

たことが残されているので、だいたい300年前くらいだと思っんですよ」といったって大らか。乃木大将も宿泊したという「看板」の旅館は空襲で失いましたが、ホテル丸治の伝統は意外なところに残されています。それは屋号と同じ「治」の字を入れた当主の名前。治さんから事業を継承した現社長は治雄さん、専務は治久さん、そしてまだ幼い16代目は治加良さん。受け継がれる名前が家業への誇りと愛情の象徴なのかも知れません。

戦後間もなく、治さんは焼け野原となった土地にも畳2間の旅館を建て、木賃宿の許可を取って営業を始めました。時を見ながら事業を拡張し、現社長の治雄さんの代に8階建てのホテル建築に着手。昭和48年(1973)から62年(1987)まで3回に分けて工事を行い、平成15年(2003)に改装工事も終了しました。「ホ

テル業は装置産業、設備投資に失敗すると継続することはできません」と、その才覚で少しずつホテルを大きくしてきた社長が今、こう言います。「市内ではビジネスホテルが激に増え、価格競争が激化しています。伝統を守るだけでは生き残れません。今の時代は、事業を継続していくために攻めていくことも必要です。しかし単に利益を追求するのではなく、地域に根ざした企業でありたい。この地に暮らす従業員と共に繁栄していきたいと思っています」

社長が掲げた経営理念は「宿泊部門は社会の公器として、飲料部門は食を通して食文化の向上を図り、社会に貢献する」。ここにも、地域と共に繁栄するという強い決意が示されています。そして、その「事業継続」と「地域発展」に掛ける思いは、ホテル・ザ・セントレ宇都宮のオープンに繋がりました。開業の責を担った専務の治久さんも、「宇都宮の中心市街地の灯を消すわけにはいきません。地域の活性化を考えることは、私にとっ



ホテルのロビー前に飾られた、明治27年発行の宿屋営業許可書

て家業と同じ重みを持つライフワークみたいなものです」と、ホテル開業の原動力となったまぢづくりへの思いを語ります。「命を懸けるか」との会長の問いに「はい」と青いた治久さん。新ホテル経営への意気込みは熱く、ホテル3階の日本料理店「治兵衛」にガラス張りのオープンキッチンを設置、安全・安心な食を目に見えるかたちで提供したり、自ら足を運んで地域の特色ある食材を掘り起こしたり、時代のニーズに即したサービスの提供にも積極的に取り組んでいます。

ホテル・ザ・セントレ宇都宮の歴史は始まったばかり。しかし、そこにはホテル丸治が育んできた伝統の「おもてなしの心」が息づいています。



宇都宮市の大通りに面したホテル丸治



代表取締役会長 福田治氏(写真中央)、代表取締役 福田治雄氏(右)、専務取締役 福田治久氏(左)。代々地域の消防団長を務めてきたのも「丸治」の伝統

ホテル丸治
宇都宮市京町1-22
☎028-621-2211

ホテル・ザ・セントレ宇都宮 BAR 五楽
宇都宮市本町4-11 宇都宮市京町1-21
☎028-625-1151 ☎028-621-4413

日本料理 丸治 和堂 あさひ庵
小山市喜沢87-1 宇都宮市京町1-22
☎0285-24-7211 ☎028-627-1266

URL <http://www.maruiji.jp>

※このコーナーは隔月で掲載します。